

考古学若手研究会 2020 第3回研究発表会 要旨

第2回研究発表会

日程： 2021年2月21日（日）実施

場所： Zoom

発表1

「死者とともにあるもの

—古墳時代前・中期の竪穴系埋葬施設における遺体に伴う“副葬品”の様相について—

横山舞¹

¹ 東北学院大学大学院 文学研究科

古墳の埋葬施設に置かれる「副葬品」が、子細に見ると様々な性格を有しているということは多くの研究者が認めているが、実際に遺体と遺物との位置関係を意識的に見た例は少ない。発表者は、人骨（歯）が検出された単葬の埋葬施設を全国的に集成し、配置場所と配置品目を分析する中で、特に遺体に近接する品物には何が選ばれ、それらにはどのような性格があるのかをより明確にしようと検証した。その結果、埋葬施設の配置場所によって品物に偏りがあることが認められ、遺体に近接する品物には複数の異なる性格があるということが明らかになった。

発表2

「古墳時代中期における鉄製農工具の編年と地域差」

繰納民之¹

¹ 京都大学大学院 文学研究科

古墳時代鉄器研究において、農工具はその資料的属性の少なさから、他の武器・武具類に比して専論が少ないといえる。一方で農工具は、地域性の存在が想定され、畿内中枢における集約的な生産が想定される武器類などとは異なる生産構造を有していたと考えられる。本発表では、鉄製農工具副葬がピークを迎える古墳時代中期を対象として、分類・編年研究を行い、鉄製農工具に認められる地域性の存在を明らかにする。また、鉄製農工具に装着する木製農工具についても検討を行い、鉄製農工具地域差発現の背景を考える。

主催： 考古学若手研究会 2020（実行委員：中川朋美（南山大学 博士研究員）、ジョセフ・ライアン（岡山大学 特任助教））

共催： 文部科学省 科学研究費助成事業 新学術領域研究（研究領域提案型）2019年度～2023年度「出ユーラシアの統合的人類史学 - 文明創出メカニズムの解明 -」A02班・C01班 南山大学考古・人類学セミナー「形ノ理：モノが語る物語」